

北海道支部 60 周年記念兼第 38 回東北・北海道地区交流集会

in 洞爺湖有珠山ジオパーク 2025.7.11~12

記録：武田幹男

□参加メンバー：鈴木理夫、沼部貞治、沼部ひろみ、杉田和美（会友）、武田幹男

□11 日：記念講演と噴火による災害遺構場所の見学

- ・洞爺湖温泉の女将の川南美恵子氏（火山マイスター）による《有珠山とともに生きるー火山との共生が教えてくれたことー》の記念講演がありました。

有珠山のすぐ麓には、約 1 万年前から人が暮らしており、住民はどのように火山と共存してきたかのお話がありました。

有珠山の火山活動の恩恵は、火山灰でできた良好な耕作地帯や果樹園、1910 年の噴火がもとで誕生した温泉そして火山が作った素晴らしいカルデラ湖の景観等があります。これらは、ユネスコ世界ジオパーク認定地として北海道有数の温泉観光地になっております。

こんなに火山に近い場所なのに共存できる理由は、《マグマがゆっくり上昇する便秘型のスローな火山活動》であることで、避難・安全対策の予知がしやすい状況にあり、そのことが大きな要因であることを教わりました。

2000 年に川南氏自身の宿も噴火の災害にあっており、“火山とともに共生する住人”の立場として火山防災・減災の意義をマスコミ等で発信しておられます。

このことで私のこれまでの火山の危険性の概念が、大きく変えられました。

- ・講演終了後、噴火による災害遺構場所として《町民温泉施設や市営住宅及び流された橋等》を見学し、自然災害のすさまじさを改めて認識しました。



町民温泉施設跡地



市営住宅跡地(1 階は地下下)

□12日：昭和新山 398m（1943~45年噴火）交流登山と三松正夫記念館見学

・行程：洞爺湖ホテル 8：40→昭和新山登山口 9：00→亀岩→昭和新山山頂→亀岩→昭和新山登山口 12:40→三松正夫記念館見学→山麓駐車場 13：10→洞爺湖観光ホテル 13：25(解散)

・昭和新山は、山全体が特別天然記念物に指定されており、個人所有の山となっています。従って、特別の許可がなければ登ることのできない山です。今回は、昭和新山の所有者の三松靖志氏（火山マイスター）の案内をいただき、めったにない貴重な山登りの体験をいたしました。

昭和新山は、中腹から草木が無くなり、山の表面は生暖かく、直下の内部は 100 程度程度の温度で所々水蒸気が噴出しております。この温度は、蒸し料理にとっても適した場所です。事前に案内がありましたので、蒸し料理に適した食材を多くの参加者が持参して賞味しました。私もジャガイモやトウモロコシなどの食材を持参すれば良かったと後悔しました。沼部さんから頂いたサラミの蒸し料理は、とても美味しかったです。

登山道で斜めの滑りやすい危険な通路が 2 か所ありましたが、その場所にスタッフ 3 人で両手を広げて通路より低い場所に注意喚起をしていただきましたが、万一滑ったらスタッフを巻き込んで一緒に落下するのではと感じました。（実は、先月に月山清川小屋へ本道寺から登った時に通常の登山道が土砂崩れで流され、直登に近い危険な迂回路を通った時に掴んでいた枝が切れて 2 m 滑ってしまいました。相棒を巻き込む危険な目に合ったばかりなので、その時のことを思い出しました）

NHK 教養バラエティー番組「ブラタモリ」で登山の様子が放映されたそうです。一緒に登った女子アナが、ころがっている赤い石の種類を質問され“レンガ”と回答し、正解したそうです。（私は、わかりませんでした）バラエティー

活火山の生きている姿を間近に見てとても地球の不思議を肌で感じ、また山頂からの洞爺湖からの絶景を見ることができてとても満足しました。

・下山後、三松正夫記念館を見学しました。郵便局長だった三松正夫さんが、麦畑が徐々に隆起していく状態を見て、《噴火は地球の内部を探る最大のチャンス》と捉え最初から最後まで毎日スケッチと測量と記録を続け、火山の成長する姿を危険を顧みず命がけで作成した資料を閲覧しました。また、三松正夫さんは、家族の猛反対にもかかわらず新山の場所を全財産を投げうって購入し、外部からの侵入者の掘削による地形の変形を危惧し、我が子のような思いで保護したとの事です。

やはり、歴史に残る明治の人は、すごいなとつくづく感心しました。

このことは、戦時中なので不吉な現象として世の中には一切報道されなかったことも知りませんでした。

備考：三松正夫の略歴

明治 21 年生まれ昭和 52 年没。明治 37 年～45 年まで絵描き志望だったが、夢かかなわず郵便局長となる。明治 45 年有珠山噴火を体験し、来訪した大森東大教授の下、地学・火山に開眼。昭

和 18 年～20 年昭和新山の寝食を忘れて調査し記録。昭和 21 年昭和新山生成地を買い取り、天然記念物指定を申請し、その保護に努める。昭和 23 年オスロ万国火山会議でミマツダイヤグラムと命名され絶賛される（受賞：北海道文化賞、勲 5 等瑞宝賞、吉川英治賞、国立公園功労賞、北海道文化 財保護功労賞三松正夫記念館。壮瞥町名誉町民等）



蒸し焼き料理の場所



□12日-13日：ルーム白石（北海道支部集会所）

・北海道支部の黒川支部長の計らいでルーム白石（1戸建）に1500円/人で泊まることができました。（札幌のルーム白石まで車で送っていただきました）

とても快適で応接間、打合せルーム、台所、風呂、図書室付きのルーム白石です。

（街の中に位置し、隣のスポーツショップ秀岳荘様の無償貸与とのこと）

北海道支部は、今年で60周年になり、記念行事も東北・北海道地区集会と一緒に催されました。おめでとうございます。

「支部60年のあゆみ」に記載されていた記事で、印象に残った下記の文章があります。年報「ヌブリ」1号(1971年)に掲載された中野征起氏の記述で《山登りは元来個人の自主性が尊ばれるべきであり、百人百様の考え方があるべきである。集会の山の雰囲気を楽しむ人、近郊の山歩きに浩然の気を養う人、そして。垂直の壁に最新技術を競うのもよかる。支部は、そういった人の集まりである》の考え方は、今も支部活動に継承されています。

また、支部活動で《子供サマーキャンプ》という小・中学生の子供たちに3泊4日のキャンプや登山、ツリークライミングなどの自然体験の場を提供する、素晴らしい公益活動があります。山形支部の《学校から見える山のイラストプレゼント》活動と通じるものを感じました。

一緒に泊まった岩手支部の阿部支部長ら3人と夕食と美味しいお酒をいただきながら、支部活動の意見交換をしました。特に10年連続支部長を務めている阿部支部長(女性)の活動の話が興味深かった。地元のラジオ放送で12年間、里山紹介の活動をしているとのこと。紹介するには、必ず自分で登ること、文献を調べることに、紹介する文章の作成の3点セットが必要なもので、結構大変だが反応もありやりがいがあるとのことでした。どこの支部にも、逸材がいるものです。



□13日-14日：鈴木支部長と一緒に観光

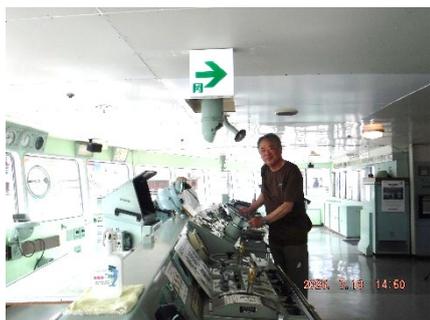
- ・巡った観光地：函館山、金森赤レンガ倉庫、青函連絡船摩周丸、五稜郭 他
- ・函館の町は、学生時代に過した横浜の街に似た建物が多く雰囲気もそっくりで、とても親しみやすい素敵な街でした。

私が、特に印象に残ったのは、金森赤レンガ倉庫と五稜郭です。

五稜郭は、幕末の日米和親条約により下田と箱館が開港され、その奉行所として西洋式の城郭が設置されましたが、ここを舞台にした明治維新の箱館戦争で多くの人材が失われました。詳しく管内の資料を見て廻ると、世の中を動かすため命がけで活躍した優秀な人材が多くいたことに、改めて気付かされました。城郭設計者の武田斐三郎、榎本武揚、大島圭介、新井郁之助、土方歳三など偉人と、令和の口先だけの政治家と“器の大きさ”や“志の高さ”をつい比較してしまいます……。

海鮮市場での食事は、すべて美味しく特にホッケやイカが美味しかった。ウニも食べたかったのですが、ポイント稼ぎのため妻にお土産にすることにしました。(笑) ちょっと気になったのが、南陽という大粒の美味しそうなサクランボが並べてあったことです。いずれ、寒河江から北海道に移ってしまうのかな…………。

最後に、今回すべての企画でお世話になった鈴木支部長に感謝いたします。(完)



摩周丸船内



赤レンガ倉庫



函館山の眺望



教会地域



五稜郭



五稜郭内奉行所